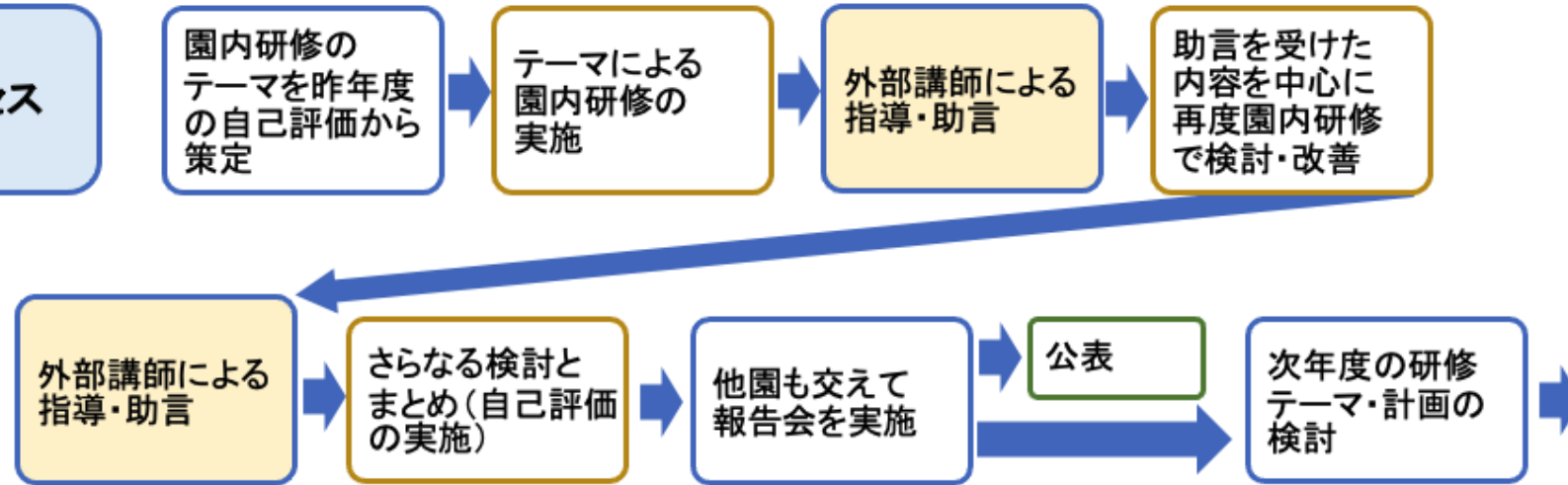


### ③園内研修及び外部講師による巡回指導の成果を活用する場合

#### 概要

自治体共通のテーマの下、各園の園内研修のテーマを立て、定期的な研修を実施し、年2回の外部講師による園内研修を行い、それらの結果をまとめた報告書を作成する。その報告書を、保護者や地域に公表する。

#### プロセス



#### 効果

- 外部講師による指導・助言の内容をもとに、園内研修で、環境の構成や援助、子どもの姿等について再検討し改善した
- 再度の指導・助言により、異なるよさや課題が見出され、それに向けて、再度改善についての検討をした
- 園内研修と外部講師の指導・助言により、保育士の共通理解や改善が進んだ。結果を公表すると保護者からも好意的な意見がたくさん寄せられた

#### ポイント

研修計画や外部講師の指導等には、自治体担当課の職員も参与し、各園の状況や職員一人一人の学びや変化にも配慮する等、保育を理解しようとしている。

### ③園内研修及び外部講師による巡回指導の成果を活用する場合(具体例)

#### 園内研修のテーマを昨年度の自己評価から策定

前年度の自己評価で明らかとなった園の保育の強み・弱みをもとに今年度の研修・研究テーマを設定。

- 自治体共通テーマ 主体的に遊べる子どもを育てる
- 園のテーマ 継続して遊びを楽しめる環境の構成と保育士の関わり

#### テーマによる園内研修の実施+外部講師による研修成果の活用

- 園内研修(記録をもとにした保育の振り返りや職員間の共有) → 次の保育へ向けた改善(環境の構成/援助他)
- 研修報告の回覧・報告・共有(様々な勤務体制への配慮)

#### 外部講師による指導・助言

外部からの視点を入れ、さらなる振り返りと改善を進める。

#### まとめ クラス間の共有 (クラスの自己評価)

##### 各クラスの成果・課題

0歳児クラス  
1歳児クラス  
2歳児クラス  
3歳児クラス  
4歳児クラス  
5歳児クラス



対話



#### 公表の範囲・内容

①保護者 ②地域や関係機関 ③その他

公表:園の保育の強みや弱みの発見  
それに対する研修・研究の過程

#### まとめ 園全体での共有(園の自己評価)

##### 園全体の保育の強みの発見(例)

- ・「〇〇やりたい」と自分から遊び出す姿が見られ主体性が育った。
- ・年下の子が年上の子の姿をよく見ることで経験が増えた。
- ・継続して遊びを楽しむための環境の構成の大切さがわかった。
- ・保育士も環境の一部で、子どもに与える影響の大きさを実感した。

##### 次年度に向けた課題(弱み)の発見(例)

子どもの姿や保育士が取り組んでいること、取り組みたいと思っていることなど、さらに語り合える場が必要。風通しのよい関係づくりをしていくことで、充実した保育へとつながる。

#### ポイント

- ・園内研修(内部・外部講師)での学びやその過程を可視化しまとめる
- ・ガイドラインの「評価の観点」を参照して、園全体の自己評価にしていく
- ・自己評価をもとに次年度の研修計画(園/個人)を作成する
- ・園の研修報告(自己評価)で他園と報告会を行い、園ごとの学びを知る
- ・担当課の職員もこの過程に参画する

# 園内研修の過程の公表(追補資料)

## 1. 園内研修の目的や計画を伝える

市内保育所共通テーマ 「主体的に遊ぶ子を育てる」

保育所サブテーマ 「見通しをもって生活できる子を育てる」

《保育者の願い》

- ・遊びは主体的に変わってきたが、生活面でも主体的に行動がとれるようになってほしい、
- ・活動の見通しをもって行動ができるようになってほしい、
- ・自分で考えて、生活の切り替えができるようになってほしい。

↓

昨年度の反省・保育者の願いを踏まえサブテーマを決定

↓

サブテーマ 「見通しをもって生活できる子を育てる」

↓

生活の中で子どもが主体的に行動できるようになるためにどうしたらいいのか？

- 前年度の自己評価を基に、研修計画を立案する
- 年度当初、保護者や地域に伝える

## 2. 園内研修の過程を伝える

**第3回 所内研修**

12月7日(月)・12月8日(火)の2日に分けて第3回所内研修を行いました。一人ひとりが自分の園のテーマから思いをもち、保育に取り組みを進め、事例をもとに園内研修士一人ひとりの実践が盛り込まれたが、恐ろしかったら・・・、の二つの視点から、2グループに分かれディスカッションを行いました。

育ちの保障(テーマ)	「一人一人の身体的発達を促す」	可視化する
子どもの居	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内での運動遊びが確認されることで、速速に変化をうけて活動的に取り組む、自分のやりかたがあった。</li> <li>・戸外の遊具環境にもいろいろと挑戦し、走る・跳ぶ・バランスをとる等、多様な遊びが楽しんでいた。</li> <li>・中には中々に慣れ、運動に挑戦の子も多かった。</li> </ul>	  
保育者の居	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット遊びでは運動と遊ぶ遊びだ、だからジャンプとのかき混ぜるようになり、遊具も活用し、身体活動の連続的な遊び、遊具で安全に体を動かす動きも活用していくように取り組んだ。</li> <li>・遊び場や園庭などにより活動遊びが、言葉も十分に発達していた。</li> <li>・発達や成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。</li> <li>・子どもの発達と共に運動遊びの発達も、調子を合わせた発達を促すようにしていった。</li> <li>・つらいうるまわりの子どもたちが活動遊びについて楽しさを伝えた。</li> </ul>	 
育ちの保障(保育者の居)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達や成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。</li> <li>・子どもの発達と共に運動遊びの発達も、調子を合わせた発達を促すようにしていった。</li> <li>・つらいうるまわりの子どもたちが活動遊びについて楽しさを伝えた。</li> </ul>	
育ちの保障(子どもの居)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達や成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。</li> <li>・子どもの発達と共に運動遊びの発達も、調子を合わせた発達を促すようにしていった。</li> <li>・つらいうるまわりの子どもたちが活動遊びについて楽しさを伝えた。</li> </ul>	
育ちの保障(保育者の居)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達や成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。</li> <li>・子どもの発達と共に運動遊びの発達も、調子を合わせた発達を促すようにしていった。</li> <li>・つらいうるまわりの子どもたちが活動遊びについて楽しさを伝えた。</li> </ul>	
育ちの保障(子どもの居)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達や成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。</li> <li>・子どもの発達と共に運動遊びの発達も、調子を合わせた発達を促すようにしていった。</li> <li>・つらいうるまわりの子どもたちが活動遊びについて楽しさを伝えた。</li> </ul>	
育ちの保障(保育者の居)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達や成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。</li> <li>・子どもの発達と共に運動遊びの発達も、調子を合わせた発達を促すようにしていった。</li> <li>・つらいうるまわりの子どもたちが活動遊びについて楽しさを伝えた。</li> </ul>	

人に比べて早くわかるのか？  
恐ろしかったら・・・  
の二つの視点から見ました。

子どもの成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。

子どもは主体的に変わってきたが、生活面でも主体的に行動がとれるようになってほしい、

活動の見通しをもって行動ができるようになってほしい、

自分で考えて、生活の切り替えができるようになってほしい。

ディスカッションでは・・・

子どもの成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。

子どもは主体的に変わってきたが、生活面でも主体的に行動がとれるようになってほしい、

活動の見通しをもって行動ができるようになってほしい、

自分で考えて、生活の切り替えができるようになってほしい。

まとめ

● 1園児での事例をご紹介しましたが、事例が所属するこの年齢ならではのテーマだと思います。多く・走る・より登る・くぐる・這るが基本。子どもの成長に合わせて、身体能力が伸びていくような環境を設定したり、種々の遊びに挑戦したりすることで運動意欲を高めたという気持ちが伝えています。

また、発達を促す活動を行うことで「楽しい」「面白い」「面白い」という喜びや達成感を味わいながら「自分」へとつながるのではないのでしょうか、我が園のディスカッションで保護士同士が思いを伝え合ったりすることで、さらに保護者の目上につながっていると思います。乳児期の子どもは身体的な成長が最も早く進んでいくことが多くあります。今後も引き続き子どもの育ちの保障をするための遊びの工夫や環境設定を行ってまいります。

保育者が仕掛けた活動遊びから、自分たちでルールを決め、自主的に遊びはじめたことが出来ました。見守ることの大切さを実感しました。

子どもの成長の過程を見れば、子どもが主体的に挑戦してきているように見えるので、自信につなげられるようにした。

子どもは主体的に変わってきたが、生活面でも主体的に行動がとれるようになってほしい、

活動の見通しをもって行動ができるようになってほしい、

自分で考えて、生活の切り替えができるようになってほしい。

今日の園内研修では、日々の保育を取り組み、保護士一人一人が今後の課題を見つけて出すことが出来ました。さらなる保護者の目上を目指し、子どもの育ちを保障できるよう、石井先生のご指導やアドバイスを今後の保育に活かしていきたいと思っております。

上: 園内研修の過程を保護者や地域に伝える文書

下: 外部講師からの指導や協議の状況を保護者や地域に伝える文書

追補



# 園内研修のまとめを自己評価に(追補資料)

## 3. 園内研修で得られた学び 気づいた強みと弱み

【2 歳児たんぽぽ組】  
一年間の保育を振り返って・・・

- ・子どもの気持ちや楽しみ取り、環境を整えていく事が、遊びの背景や継続につながっていく。
- ・保育者も環境の一部であり、子ども達の興味・関心・意欲の向上に大きく関わっている。
- ・保育を展開して行く中で、自己評価と職員間のコミュニケーションを取ることも大切さを実感した。

たんぽぽ保育力フェア

【成果】  
＜子どもの変化＞

- ・自分が好きな遊びを満足いくまで継続し、楽しんでいた。
- ・継続して遊びを楽しむ中で、友達との存在が大きくなり、関わりが増えていった。
- ・年上の子の姿を真似する中で、様々なことに挑戦しようとする気持ちが生まれた。
- ・環境も挑戦する中で満足感や達成感を感じるようになった。
- ・長い期間、生き物と触れ合うことで楽しさや思いやりの気持ちが育った。

遊びを中断しむいために食べた  
い子からアラスまであやつる食べ

	成果	今後の課題
0・1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもちゃをかたづけたらきゅんきゅんしようね」「したくがおわったらそとであそぼうね」と見通しをもてるような声かけをすることで、子ども達が自分の行動ができるようになった。</li> <li>・職員が、子どもが見通しをもてるように工夫した声掛けを援助するようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員違う個性で成長していくので、一人一人を把握しつつ、子ども達との信頼関係を築き、興味や発達に応じて、次の遊びに誘うようにしていく。</li> <li>・自分でやってみようと思えるような声掛け。</li> <li>・子どもの思いに気づく力と読み取る力が重要であり、小さな声に気づくようにしていく。</li> </ul>
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日同じ流れにしたことで、個人差はあるものの少しずつ支度や身の回りの始末など、見通しをもち行えるようになってきた。</li> <li>・クラス担任だけでなく、全職員で連携をとり保育にあたり見守っていることで、やりがい遊びだけでなく生活面でも自分のペースで待つことなく子どもが行えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びとは違い生活の場面でも、やる気や子どもの力を引き出すための、子ども一人一人への声のかけ方、環境構成の難しさを感じる。今後も子ども一人一人をよく観察し、見守りながら、声のかけ方や場の作り方など工夫していく。</li> <li>・子どもの性質、発達により援助し、点に導いていく。</li> <li>・「戸外では異年齢と関わりながら遊べるが、室内での関わりがもう少し多くなるとよい。</li> </ul>

- 個々の保育士の自己評価
- クラスの自己評価
- 園内研修での学び

## 4. 園全体の自己評価

### ●研究のまとめ

過去2年間の研究で遊びの主体性が出来てきたことにより、今年度は、生活面での主体性を意識した保育を進めていった。4月初の子どもの姿を見ると、保育者の指示がなくては行動に移せなかったり、「つぎはなにをするの？」などの質問をしたりする子が多かった。

そこで、子ども自身が見通しをもって主体的に行動できる援助の仕方を考えるようにしていき、職員がテーマを意識し全体で、共通理解をしながら生活の流れを見直していった。毎日同じ生活の流れで過ごし、子どもの姿にあった環境構成を園全体で取り組み、一人一人に寄り添った保育をすることで子どもが自ら考えて行動ができるようになってきた。

一人一人個人差はあるが、入所から卒業までの経験による成長・発達にも見通しが必要であることをふまえて来年度に引き続き、生活の中で個人の主体性が育つように援助していきたい。そのためには、異年齢児の交流を大切にしていきたいと思う。

今後も、所内研究を通して自分の保育を振り返り、園全体で共通理解していき、よりよい保育ができるよう向上する姿勢でありたい。

参考 1 保育の基本的理念と実践に係る観点 (例)

2 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

3 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

4 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

5 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

6 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

7 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

8 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

9 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

10 養育者の実践観と子ども発達に係る観点 (例)

さらに、自己評価ガイドライン「評価の観点」を参照し、評価の観点を加えて

職員同士が語り合いを通して園全体の評価を作成する

追補